

ログポイント

Helvetica 0.5

Nass 0.6

Diana 0.6

Kirsikka 0.1

Sputnika 0.0

Arl 0.0

内容

■ 偵察

連戦で Spurhorn 砦を守り切った翌日、一行は Commander Pharamol に呼び出された。
曰く、敵を退けることはできたがまだ脅威は去っていない、反撃のためにも偵察ができないかということだった。

一行には調査呪文の用意もなかったが、Nass が手を上げた。
何マイルも先であっても変身して飛んでいけば良いらしい。
しかし、ここは異国の地。よく見知った鳥に変身していったりすれば、逆に目立ってしまう。
Nass は一計を案じて、近くを飛ぶ鳥のような生き物に変身し砦を飛び立った。

Nass が空から鳥(?)の目で地上を探すと、敵軍はあっさり見つかった。
Barbarian と Dragonkin で構成された混成部隊。どちらも非常にタフなので真正面からぶつかれば苦戦は必至だろう。

夕食確保のために投擲される Barbarian の槍を避けたりしながら上空を旋回していた Nass は、不思議な光景に目を止めた。

トカゲのような不思議な生き物に囲まれて、一人の魔術師らしき人物が儀式をしていた。
魔術師が呪文を唱えると不思議な生き物の姿は煙のように掻き消えた。

不穏な空気を感じ取った Nass は離れた木陰に降りると元の姿に戻り、Tree Stride を唱えた。
Nass の身体が砦付近の木に転送されると同時に魔力が働き、その着地点は捻じ曲げられる。

気が付くと、Nass は思惑通り砦の地下牢に戻っていた。

■ 防衛線

Nass のもたらした情報を元に、砦のメンバーは防衛線を固めることにした。
Nass の見た不思議な生き物の正体はつかめずじまいだったが、方角から考えて北の城壁の防備を固める。
儀式をしている以上、侵攻のタイミングは近いはずだった。

一行が目を凝らして北の空を見つめていると、同じく見張りに立っていた魔術師が声を上げた。
その声は最後まで響くことなく、一行がそちらを見ると、魔術師の身体は石になっていた。

目を上げると何もいなかったはずの上空には（Gaze を使ったことで姿を表した）謎の生き物が、Diana と Christopher は即座にそれを竜混血の Basilisk, Dracolisk と看破したことで、Kirsikka と Helvetica は目を閉じる。

しかし、脅威は Dracolisk だけではなく、Dracolisk に囲まれるように吊り下げられた、棘だらけの異形。

異形は一瞬空中で身をかがめるような仕草を取ると、バネのように Helvetica に向かって跳躍し、のしかかった。

成す術なく組み伏せられた Helvetica だが、Kirsikka と共同戦線を張って、異形に着実にダメージを与えていく。

巨大化した Nass の一撃が決まると、異形は崩れ落ちた。

Dracolisk たちも当然 Gaze と高い肉体能力を駆使して立ちまわるが、Gaze の致命性を理解しきって目を閉じて戦う一行の戦術、

すさまじい Arl の火力と Diana の無力化呪文に阻まれて思うように戦えないまま数を減らしていった。

結果、さほどの時間をあけず Dracolisk は掃討され、その生き血は絞り出され、石化した犠牲者に振りかけられた。

すると、最初に石化した魔術師の肉体も元の柔らかさを取り戻した。

ひとまずの勝利であったが、休息はなかった。ひときわ大きな悲鳴が響く。

敵の攻勢が始まると同時に砦の外に打って出た Shathan が倒れたのだ。

周囲ではロングソードを振りかざして飛び回る 6 体の Dragonkin。

このままでは Shathan がとどめを刺されるのは時間の問題だった。

城壁から飛び立った一行は救援に入る。

Sputunika の呪文で Shathan を回復しながら敵を分断し、打撃を集中し、倒していく。

恐るべき破壊力を秘めた Bescaylie の Lance charge が唸り、下の人々の Breath Weapon が吹きつけられると Dragonkin たちは押されていく。

当然 Dragonkin たちの Breath Weapon も負けずと吹き払われ、甚大な被害をもたらしたが、なんとか一行は勝利をおさめることが出来た。

■ 追撃

戦果報告会は Total ではないものの Victory に湧いていたが、Commander は眉間にしわを寄せ、深刻そうな様子で問いかけた。

曰く、

「Mailcinder を討った者はいるか？」

応える者はいない。侵攻軍の指揮官、Mailcinder は途中まで戦闘に参加していたが、敗勢となるとその姿を消した。

一旦退却して再攻勢を狙っているに違いなく、それではこの Spurhorn 砦に安寧が訪れることはない。

Pharamol はそれを危惧していたのだった。

一行は Christopher の Commune で Mailcinder の居場所を探索することにした

「本拠地に帰投したか」答えは「否」

「Skyfire Mandate の地にとどまっているか」答えは「然り」

「北もしくは南に逃げたか」答えは「然り」

「北に逃げたか」答えは「然り」

.....

.....

このようにして居場所を絞り込み、Mailcinder が砦北方の山中を腹心を含む数名の手勢とともに逃げ延びていることが判明した。

それ以上の正確な場所を調べあぐねていると、Pharamol が秘蔵の Crystal Ball を取り出した。おおまかな位置を絞り込んでいた甲斐もあり、場所の特定に時間はかからなかった。

Teleport で打って出る一行に Pharamol は饒別の Dragonbane Arrow を渡し、砦の発する Teleport 障害フィールドを停止させる命令を出すと、一行を送り出した。

■ 次なる戦い

瞬時に Teleport Out してきた敵勢に、Mailcinder たちは混乱に陥った。

Mailcinder は武人として個の戦闘能力は高く、目の前に立ちふさがる Helvetica こそ打ち倒したが、

戦局を覆すことは出来ず、あっさりと討たれたのであった。

一行は Mailcinder の荷物を回収し、Spurhorn 砦へと帰投した。

荷物には Dragonlord Irax からの書簡が含まれており、それによると Skyfire Mandate へのさらなる侵攻が計画されているらしい。

Pharamol は Irax を倒さねばならない、そうでなくては Drakeland の脅威は去りはしないと云った。

一行も Pharamol の双頭の鷲を報酬として貰い受けたとしても、鍵はもう一つ必要であり、Irax がそれを持っていると目されていた。

ここに一行は利害の一致を見た。

次なる敵は Dragonlord Irax。冒険は続く。